



HIRANO TECSEED Co.,Ltd.

第96期 中間 株主通信

2019年4月1日から2019年9月30日まで



株式会社 ヒラノテクシード



「Wet & Dryのコーティング装置」で 世界トップクラスの企業として、 企業価値の一層の向上をめざします。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、第96期中間期(2019年4月1日から2019年9月30日まで)の決算を終了いたしましたので、その概況につきましてご報告申しあげます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申しあげます。

2019年12月

取締役社長 岡田 薫

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、雇用情勢並びに所得水準の改善が続き個人消費は底堅く推移しており、企業収益は比較的堅調に推移し景気は緩やかな回復基調で推移しましたが、一部では企業収益に足踏み傾向も見られました。米中貿易摩擦の影響などにより中国経済に陰りが見え始め、輸出関連企業の設備投資計画の見直しなど、景気は不透明感が残る状況で推移いたしました。

世界経済は、米中貿易摩擦の長期化等により自動車関連から減速感を強めており、中国においては製造業以外においても影響は顕在化しつつあります。また、欧州情勢における減速感や保護主義的な政策など、経済リスクに対する懸念は大きく、不透明感が払拭できない状況にあります。

このような状況のもと当社グループにおきましては、昨年に引き続き「時流に乗って躍進」をスローガンに、顧客ニーズの変化や市場動向を的確に把握し、満足度の向上に努めるとともに、価値ある技術を創出し続けるべく、積極的に受注並びに生産活動に取り組んでまいりました。

売上高におきましては、当中間連結会計期間においては概ね予想通りに推移いたしました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は15,852百万円(前年同期比18.0%増)となり、利益面では営業利益は2,796百万円(前年同期比59.8%増)、経常利益は2,839百万円(前年同期比58.8%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,918百万円

(前年同期比68.4%増)となりました。

また、受注におきましては企業の設備投資計画にも慎重な姿勢が見られる市場環境のもとではありましたが、電気自動車関連市場を中心とした二次電池電極塗工装置は堅調に推移いたしました。

今後の見通しにつきましては、国内は、雇用及び所得環境等の改善が持続するなかではありますが、米中貿易摩擦の長期化や原材料価格の高騰並びに人手不足などによって企業業績悪化が懸念される状況にあります。

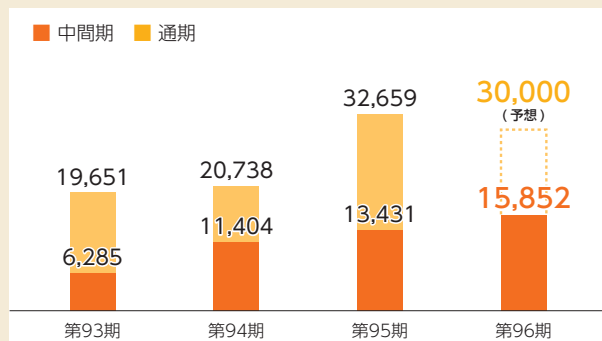
また、世界経済においては、欧米では雇用環境は改善傾向にあると思われませんが、企業の設備投資意欲も低迷しており、製造業等における輸出や生産性に対しては回復には懸念も残ります。中国でも政策による景気の下支えにより、底入れが期待できますが、米中貿易摩擦による設備投資の抑制など、先行き不透明感が払拭できない状況にあります。

企業の設備投資におきましては、生産性向上に向けた省力化や自動化への投資需要は見込まれますが、海外における投資減速感の高まりも見みせており厳しい状況下であります。

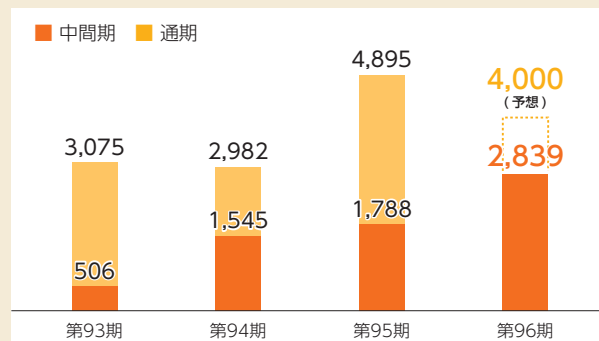
当社グループは注力分野である電気電子部品関連やエネルギー関連分野へ積極的に営業を展開するとともに、顧客満足度の向上、新技術開発、新市場開拓に取り組んでまいります。

現段階での、通期の連結売上高は30,000百万円、連結経常利益は4,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は2,700百万円を見込んでおります。

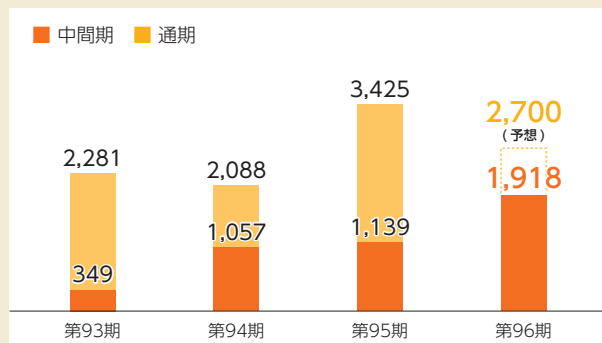
売上高 (百万円)



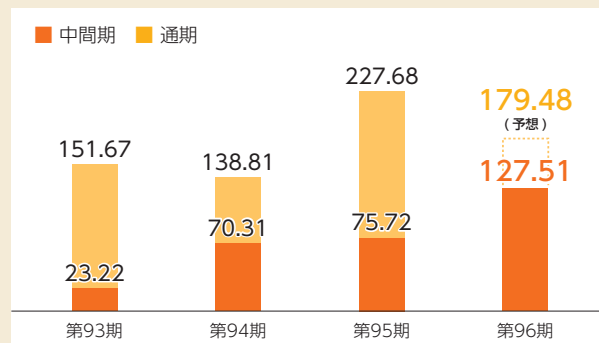
経常利益 (百万円)



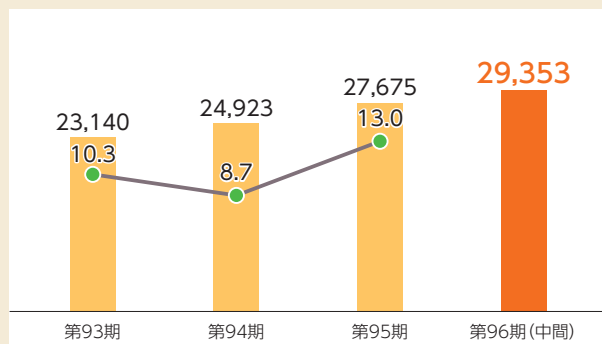
親会社株主に帰属する中間 (当期) 純利益 (百万円)



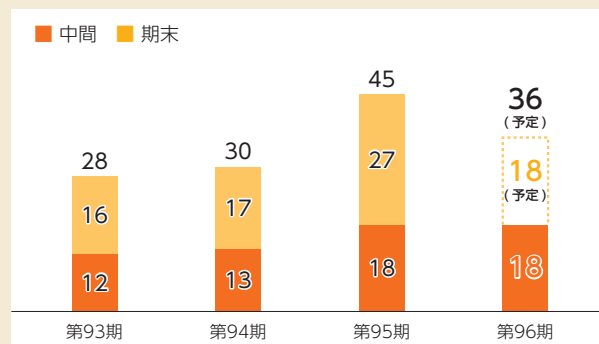
1株当たり中間 (当期) 純利益 (百万円)



自己資本 (百万円) / ROE -●- (%)



1株当たり配当金 (円)



トップインタビュー



現在注力している事業と今後の事業展開、2019年10月に完成した木津川工場の果たす役割について、代表取締役社長の岡田薫が株主の皆さまにお伝えいたします。

Q すすめ—2019年度(第96期)中間期の業績と見通しについてお聞かせください。

A 米中貿易摩擦の影響はありましたが、中間期は前年比増収増益となりました。通期では期初予想通りの業績に着地できると考えています。



ここ数年、スマートフォンや電気自動車関連市場が好調で、関連産業の設備投資が旺盛だったことから、塗工機関連機器、化工機関連機器ともに収益を順調に伸ばしてきました。ただ、昨年来の米中貿易摩擦の影響に伴い中国で生産している電気・電子部材関連分野にも受給の鈍化が見られ、生産を調整する企業もあり、弊社の受注状況も落ち着きを見せてまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は15,852百万円(前年同期比18.0%増)、経常利益は2,839百万円(同58.8%増)となりました。

中国向けについては引き続き厳しい状況が予測されるものの、欧州の電気自動車関連向け等が好調であり、おおむね期初に予想した通りの収益に着地できると考えております。

Q | 一塗工機関連機器部門の現状と見通しについて教えてください。

A | リチウムイオン電池向けが好調で、今後も大きく伸びていきそうです。

塗工機関連機器部門においては、電気自動車の普及に伴いリチウムイオン電池向けがここ数年急速に伸びています。当社が供給しているのは、アルミ箔（プラス極）、銅箔（マイナス極）の表裏両面に電極材料をコーティングし、乾燥させる工程を担う塗工機械です。プラス極用、マイナス極用それぞれで両面にコーティングすること、より速く乾燥させる目的で乾燥工程が長くなることから機械が大がかりなものになり1台当たりの単価が大きいのも特長です。売上高のうち現在ではリチウムイオン電池向けが4割強を占めるまでになっています。

今後、電気自動車の普及に伴いリチウムイオン電池市場が飛躍的に伸びていくことが考えられます。とくに欧州では今後電気自動車シフトがさらに加速することが予測され、中長期的に大きなビジネスチャンスが見込めます。

Q | 一化工機関連機器部門ではいかがでしょうか。

A | 5G時代の到来で、MLCC向けのさらなる伸長が期待できます。

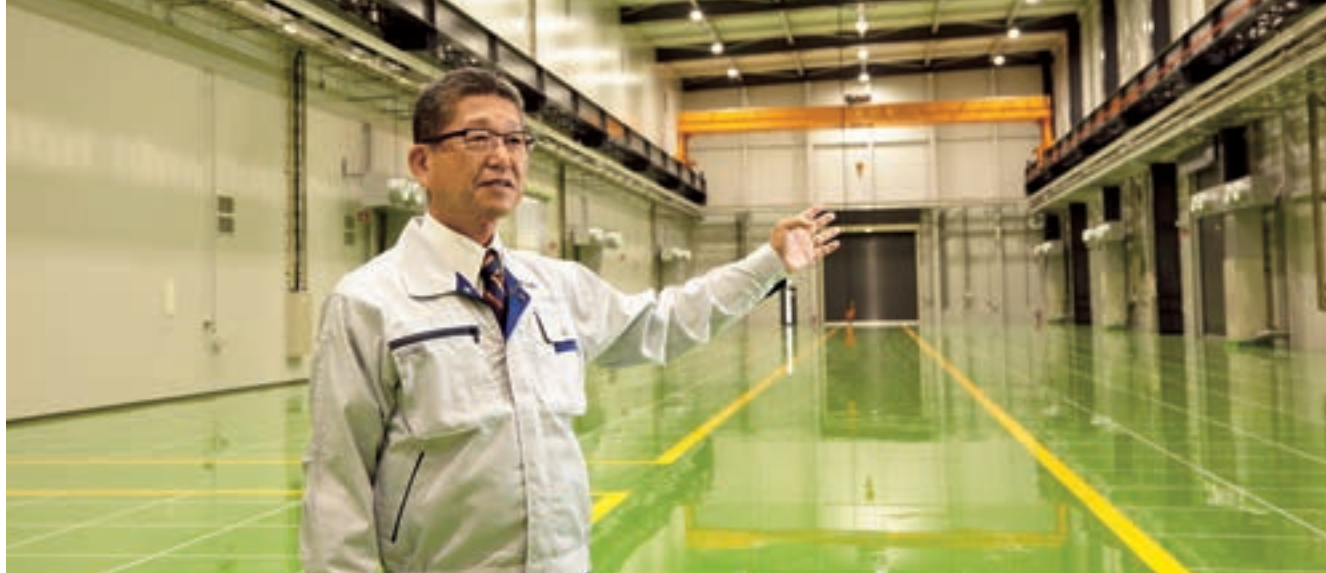
化工機関連機器部門においては、スマートフォンやハイブリッドカー、電気自動車に搭載される積層セラミックコンデンサ（MLCC）向けが伸びています。MLCCは、高機能化が進む電子部品に使われる基板に欠かせない部品で、高級スマートフォンでは約1千個、自動運転などの電装化が進む自動車向けでは1万個以上使われていると言われます。

MLCCはセラミックの薄い膜を何層にも積み重ねてできあ



がるのですが、フィルム上にセラミックをコーティングして乾燥させ、これを分離してできたセラミックの薄膜を生産する工程を担っています。売上高のうち現在ではMLCC向けが約3割強を占めるまでになっています。今後5G時代を迎え、通信のさらなる高機能化、自動車の自動運転に向けた進化が図られる中でMLCC向けもさらなる伸長が期待できます。

MLCC以外では、フォルダブル（折り畳み）スマートフォンに使われるポリミドフィルムの成膜装置を生産しています。



木津川工場 組立エリア

Q | 一このたび木津川工場が新しく完成しました。工場を新設したねらいとその特徴について教えてください。

A | 開発機能を強化し、顧客ニーズを取り込んだ商品開発を加速させます。

ねらいは4つあります。

まず、BCP（事業継続計画）の観点から本社工場を補完する役割を担うためです。本社工場は川が集中する地域にあります。近年の状況を鑑みるといつ被害に遭うかも知れません。当社のものづくりは、とくに全体の機械装置の中でもコーティングヘッドや乾燥機のノズルなど付加価値の高いものだけを内作しています。それだけに供給責任が問われ、より安全な場所を求めて今回の立地を選びました。

2つめが、開発機能の強化です。当社の開発部門はこれまで本社工場の一部を使っていましたが、今回新工場内に独立した商品開発部門を設け、顧客のニーズを取り込んだ商品開発を加速させていきたいと考えています。

3つめは、内製化率の拡大です。とくにコーティングヘッドに関しては現在約5割の内製化比率を、今後7~8割程度まで増

やしていこうと考えています。内製化率を高めることによって納期のコントロールもしやすくなります。また乾燥機の熱風吹出しノズルはすでに内製化率100%ですが、このラインをすべて新工場に移す予定です。とくにリチウムイオン電池向け塗工機における乾燥工程ではわずかなコンタミ（汚染）も許されず、製造から梱包に工程に至るまでグリーンな環境を実現しています。

4つめは、スペースの拡大です。近年塗工機械、化工機械の生産台数が増え、組立や保管の場所が手狭になっており、外部の倉庫など借りる状態が続いています。このスペースの制約を解消することによって、生産効率をさらに向上させコストの低減にもつなげていきたいと思っています。

現在、工作機械などを新設及び移設しているところで2020年3月からの本格稼働を予定しています。

Q | 一海外展開についてお考えをお聞かせください。

A | 生産工程の標準化を進め、海外の委託工場での生産を増やしていきます。

現在は韓国に資本提携先、中国に外注先があり、ともに乾燥

機を、タイでは機械の土台となる鉄骨架台を製造してもらっており、自前で海外工場を展開することは考えていません。

今後は、資本提携先、外注先に対し、上流の設計、エンジニアリングも含めて委託していこうと考えています。そのためには本社側で工程、作業の標準化に取り組んでいく必要があります。今後さらに生産が増えていくリチウムイオン電池向け、MLCC向けについても海外での増産を図っていこうと考えています。

現在売り上げに占める海外の比率は5割を超えており、今後は中国、欧州を中心にその比率がさらに増えていくと考えています。

国内に関しては、新規案件は以前よりも減少しつつあり、今後は以前に納入した機器の保守・メンテナンス、更新に注力していきます。アフターサービスは付加価値の高い事業領域であり、その意味でも事業としてしっかり確立していかなければなりません。そのための人員を確保するためにも生産、業務の効率化が欠かせないと考えています。

Q | 一生産、業務の効率化についてはどのように進めていくのでしょうか。

A | 基幹システムを更新し、働き方改革を勧めることによって効率向上を目指します。

業務の効率化については、ERPソフトを導入すべく2025年までに基幹システムの更新を図っていきます。また先にも述べた標準化に関しては部品管理システムであるBOMを活用しながら進めていきます。

併せて、働き方改革を進めていこうとしているところです。働き方に関して問題意識を持っている社員に手を挙げてもらい意見を聞くところから始め、10月末に第一回のミーティングを開催しました。限られた時間の中でどう無駄なくはたらくことができるのか、AIの力の活用や、良い事例の情報共有も図りながら、全社員で意識改革を図っていきたくと考えています。



木津川工場 エントランス

また、女性の活躍も新たなテーマとして取り組んでいます。今年度、女性社員から仕事に関する本音を語ってもらう場を設け、役員会で発表してもらいました。それらの意見をもとに、現在全社員の10%ほどである女性社員の比率を増やしていくとともに、これまで女性がいなかった職種への配属や管理職への登用も進めていきたいと思っています。

Q | 一最後に株主の皆さまに向けて、メッセージをお願いします。

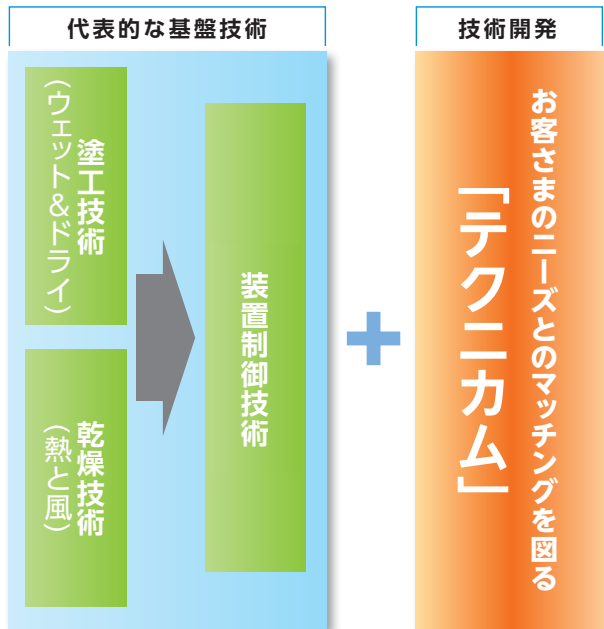
A | さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

当社を取り巻く市場は今後さらに拡大が見込まれており、このチャンスを逃がさないようしっかりと市場のニーズを読みながら納期、コスト面で顧客の期待に応え、収益向上につなげていきたいと考えています。また今般完成した木津川工場と、今後進めていく業務システムの更新により、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。株主の皆さまには引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



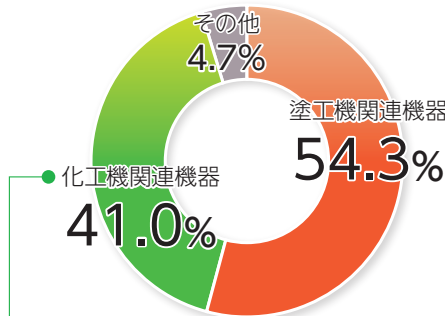
セグメント別状況

「塗工」「乾燥」「制御」の技術を融合させ、幅広い産業に欠かせない製造装置をお届けしております。



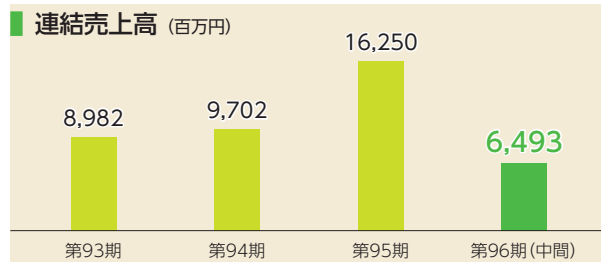
各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置

塗工機
関連機器

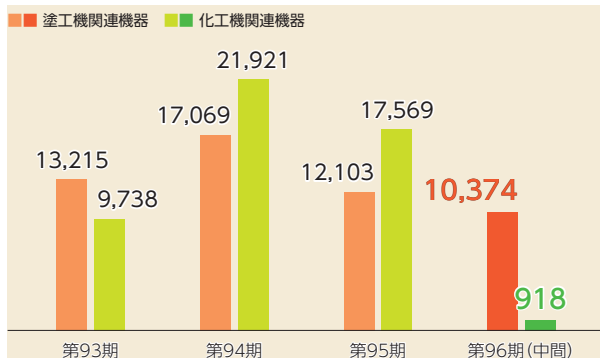


化工機
関連機器

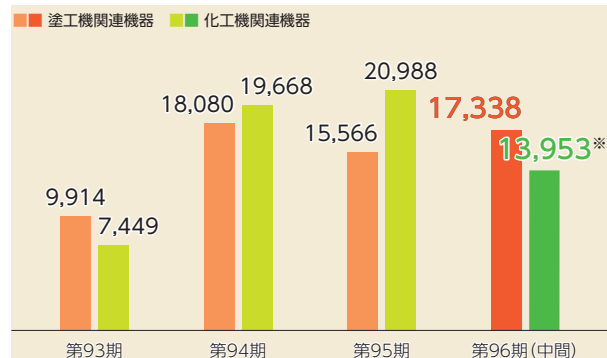
各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



■ 受注高 (百万円)



■ 受注残高 (百万円)



※客先の投資計画の凍結に伴い、1,460百万円を減額しております。

トピックス

第10回高機能フィルム展

「第10回高機能フィルム展」に出展いたします。

今回弊社ブースでは、高機能フィルム分野に関連する薄膜塗工技術として、「2層R2ヘッド」、電池分野向け「R-800DB コーターユニット(ダイヘッドはセラミック製搭載)」の実機展示を行うとともに、弊社の多様な技術をご紹介します。

会 期 2019年12月4日(水)～6日(金)

会 場 幕張メッセ

主 催 リード エグジビション ジャパン(株)

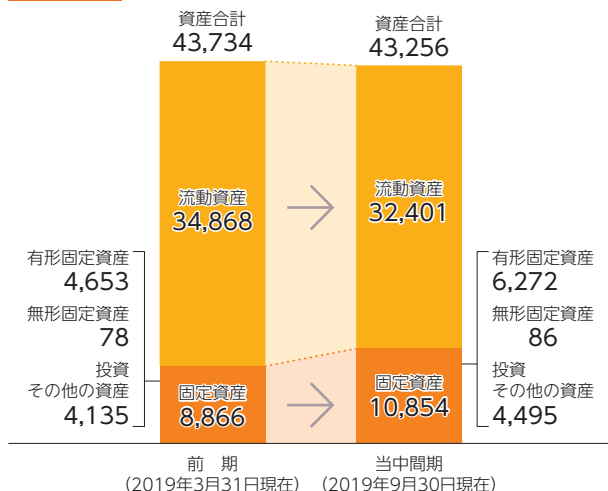


第9回高機能フィルム展の様子

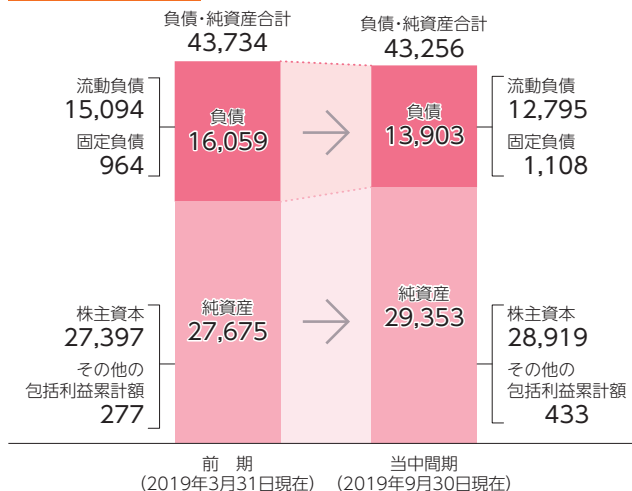
中間連結財務諸表

資産の状況 (百万円)

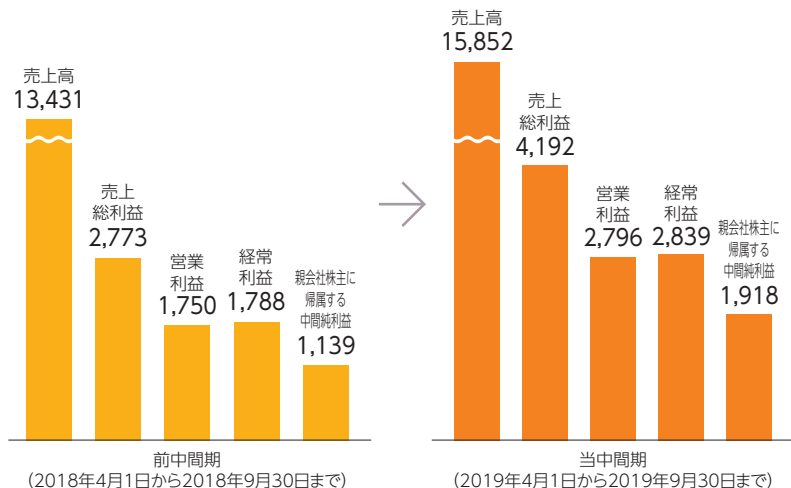
資産の部



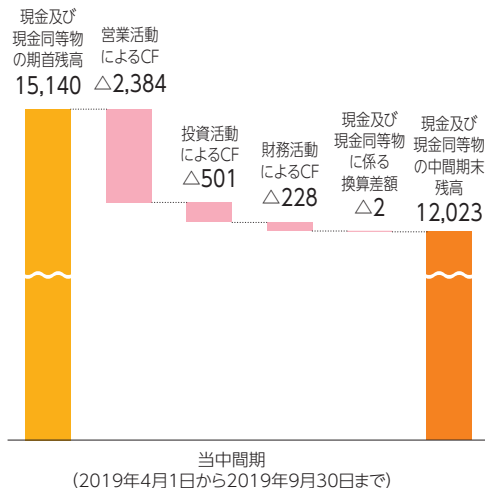
負債・純資産の部



損益の状況 (百万円)




連結キャッシュ・フローの状況 (百万円)



配当のお知らせ

第96期中間配当金につきましては、1株当たり普通配当金18円とさせていただきます。

■ 会社の概要

社名	 株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	1935年6月1日
設立	1949年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	275名
事業所	<p>本社 〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681</p> <p>木津川工場 〒619-0215 京都府木津川市梅美台8丁目1番24 電話 (0774) 46-8715</p> <p>東京支店 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町一丁目16番地 (ヒューリック神田ビル3F) 電話 (03) 5289-8834</p>

■ 役員

取締役社長 (代表取締役)	岡田 薫
常務取締役	安居 宗則
取締役	金子 二雄
取締役	岡田 富美一
取締役	原 昌史
取締役	大森 克洋
取締役 (常勤監査等委員)	田澤 憲二
社外取締役 (監査等委員)	高谷 和光
社外取締役 (監査等委員)	辻 淳子

■ 子会社

ヒラノ技研工業株式会社	(産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノK&E	(真空装置等製造及び 繊維機械等部品製造)

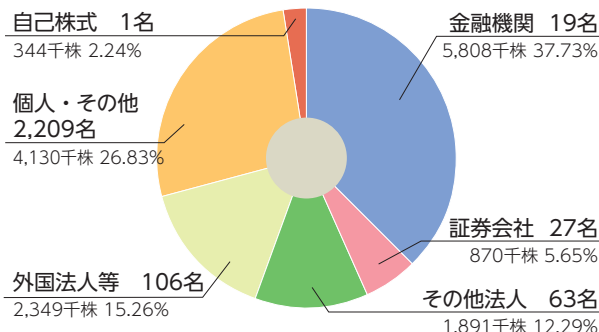
■ 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	2,425名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	持株比率 %
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.63
ヒラノ会	1,333	8.86
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	939	6.24
伊藤忠商事株式会社	850	5.65
株式会社三菱UFJ銀行	737	4.90
株式会社りそな銀行	731	4.86
立花証券株式会社	698	4.64
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	414	2.75
BBH/SUMITOMO MITSUI TRUST (UK) LIMITED		
FOR SMT TRUSTEES (IRELAND) LIMITED FOR	346	2.30
JAPAN SMALL CAP FUND CLT AC		
BBH (LUX) FOR FIDELITY FUNDS-JAPAN AGGRESSIVE	315	2.09

(注) 1. 上記の他、自己株式344,538株を保有しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 (通話料無料) : 0120-094-777

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行のインターネットでも24時間承っております。

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ



<https://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧いただけます。
ぜひご利用ください。